

李良枝「私の『ゲーテとの対話』」草稿
李良枝「富士山」原稿（コピー）
『李良枝全集』1993（平成5）年5月22日 講談社

辻 邦生（つじ くにお）と山梨

「海」創刊特大号 1969（昭和44）年7月
「新潮」1982（昭和57）年2月
辻邦生『銀杏散りやまず』1989（平成元）年9月 新潮社
辻邦生「遠い花火」草稿
辻邦生 村松定史宛書簡 1981（昭和56）年8月17日消印
辻邦生 村松定史宛書簡 1982（昭和57）年3月28日
辻邦生 高室陽二郎宛書簡 1989（平成元）年11月4日
辻邦生「含羞のエロス」原稿

第3室 芥川龍之介

【大川の水（誕生・少年期）】

伯母のふきが使った長唄稽古本
「牛乳の用法」パンフレット 1904（明治37）年11月 耕牧舎
芥川龍之介「義仲論」原稿
写真パネル 実父・新原敬三
写真パネル 養父・芥川道章
写真パネル 実母・ふくと龍之介
写真パネル 左から養母・とも 伯母・芥川ふき 叔母・新原ふゆ

【空中の火花（文壇登場）】

菅虎雄筆「我鬼窟」扁額〈複製〉
芥川龍之介「鼻」草稿〈複製〉
「新思潮」創刊号 1916（大正5）年2月
芥川龍之介「葬儀の記」原稿〈複製〉
芥川龍之介「秋」草稿
芥川龍之介『傀儡師』1919（大正8）年1月 新潮社
芥川龍之介『点心』1922（大正11）年5月 金星堂
芥川龍之介『支那游记』1925（大正14）年11月 改造社
写真パネル 左から久米正雄、松岡譲、龍之介、成瀬正一
写真パネル 餓鬼窟で。1921（大正10）年 南部修太郎
写真パネル 中国服を着た龍之介と竹内逸三

【ぼんやりした不安（苦悩と死）】

久米正雄 芥川龍之介宛書簡 1926（大正15）年7月26日消印
芥川龍之介『近代日本文藝読本』縁起 原稿
芥川龍之介「玄鶴山房」草稿
芥川龍之介筆「澄江堂十首」卷子〈複製〉原本 天理大学附属天理図書館蔵
『近代日本文藝読本』全5巻 1925（大正14）年11月 興文社
芥川龍之介『湖南の扇』1927（昭和2）年6月 文藝春秋社出版部
芥川龍之介「文芸的な、余りに文芸的な」原稿〈複製〉
芥川龍之介「或阿呆の一生」原稿〈複製〉
写真パネル 1927（昭和2）年5月24日「現代日本文学全集」（改造社）の宣伝講演会を行った新潟高等学校で
写真パネル「時事新報」1927（昭和2）年7月25日

【書画の魅力】

芥川龍之介画 墨絵
芥川龍之介画 とうもろこし
『黄雀風』見返し原画
芥川龍之介画「紙窓風淅瀝」額装
芥川龍之介 水彩画 男の肖像
『支那游記』表紙見本刷り
芥川龍之介「秋ふくる昼ほのぼのと朝顔の花ひらきたりなよ竹のうらに」軸装
芥川龍之介 水彩画 1909（明治42）年
芥川龍之介「主ぶり」軸装
芥川龍之介素描「亀」

【芥川の俳句】

芥川龍之介「麦秋の茜の産衣縫ひけらし」ほか俳句草稿
芥川龍之介「牛に積む御料桜や梅の花」ほか俳句草稿
芥川龍之介「日もすがら海鳴る音や麦の秋」ほか俳句草稿
芥川龍之介「花火より遠き人ありと思ひけり」ほか俳句草稿
芥川龍之介「朝顔や鉢に余れる蔓の丈」俳句草稿
芥川龍之介「巻煙草けむりの垂るる夜長かな」ほか俳句草稿
芥川龍之介「山にほふ落葉に月のほがらかな」ほか俳句草稿
芥川龍之介「いく秋をふる盃や酒のいろ」俳句草稿
芥川龍之介「秋鯖やあだ塩とくる一日干し」ほか草稿
芥川龍之介「町かどや入り日片照るひと茂り」俳句草稿
芥川龍之介「生け垣はかたかげりつつ山茶花や」俳句草稿
芥川龍之介「はつ時雨ありとも見えぬ飛行機や」俳句草稿
芥川龍之介「木がらしの海吹き風げるたまゆらや」ほか俳句草稿
芥川龍之介 飯田蛇笏宛書簡 1923（大正12）年12月1日〈複製〉
飯田蛇笏 芥川龍之介宛書簡 1926（昭和元）年12月29日〈複製〉
「雲母」第13巻第9号 1927（昭和2）年9月
『澄江堂句集』1927（昭和2）年12月 文藝春秋社

【芥川と山梨】

芥川龍之介「藤の花軒端の苔の老いにけり」軸装〈複製〉
芥川龍之介「水虎晩帰之図」軸装〈複製〉
芥川龍之介 山本喜誉司宛書簡 1910（明治43）年10月14日〈複製〉
芥川龍之介 山梨夏期大学講演メモ〈複製〉
堀内柳南「コスモスを揺して月に来る人」軸装
堀内柳南「虫なき出し夕くれの母の言葉」軸装

【羅生門】

「羅生門」関連ノート〈複製〉
「帝国文学」第21巻第10号 1915（大正4）年11月〈復刻〉
芥川龍之介『羅生門』1917（大正6）年5月 阿蘭陀書房
芥川龍之介『鼻』1918（大正7）年7月 春陽堂

【友への手紙】

芥川龍之介 井川恭宛書簡 1914（大正3）年1月21日〈複製〉原本 大阪公立大学資料室蔵

【夏目漱石の手紙】

夏目漱石 久米正雄・芥川龍之介宛書簡 1918（大正7）年8月21日〈複製〉

【芥川と児童文学】

芥川龍之介 鈴木三重吉宛書簡 1919（大正8）年11月9日〈複製〉
「赤い鳥」創刊号 1918（大正7）年7月
芥川龍之介「蜘蛛の糸」原稿〈複製〉
芥川龍之介『三つの宝』1928（昭和3）年6月 改造社

愛用の水泳帽
「文藝春秋」創刊号 1923（大正12）年1月
『芥川龍之介全集』（1934年岩波書店）予約募集の凸版
愛用のペーパーナイフ
自筆俳句入扇面「明星のちろりにひびけほととぎす」

第4室 飯田蛇笏・飯田龍太記念室

【境川村小黑坂】

パネル 山梨県内の地図
飯田蛇笏・飯田龍太使用の硯
飯田家家相図 1899（明治32）年

【飯田蛇笏】

飯田蛇笏「小野の鳶雲に上りて春めきぬ」軸装
飯田蛇笏「山の春神々雲を白うしぬ」短冊
飯田蛇笏「雲遠き塔に上りて春をしむ」軸装
飯田蛇笏「風さえて宙にまぎるゝ白梅花」軸装
飯田蛇笏「えぞ富士は春しぐれする蝶の冷え」短冊
飯田蛇笏「春の悲曲」句稿
飯田蛇笏「死火山の膚つめたくて草いちご」軸装
飯田蛇笏「虹に啼き雲にうつろひ夏雲雀」軸装
飯田蛇笏「青柿の花活水をさし過ぎぬ」短冊
飯田蛇笏「夏の哀感」句稿
飯田蛇笏「山ふかき飛瀑をのぼる大揚羽」色紙
飯田蛇笏「虫の夜の更けては葛の吹き返す」軸装
飯田蛇笏「乳牛に無花果熟るゝ日影哉」軸装
飯田蛇笏「山吹の落葉し尽す露の川」色紙
飯田蛇笏「雲母」口絵原稿
飯田蛇笏「深山の日のたはむるゝ秋の空」短冊
飯田蛇笏「狩くらの雲にあらはれ寒の鳶」軸装
飯田蛇笏「雪やみて山嶽すわる日の光り」軸装
飯田蛇笏「ふゆといふ人生の椅子深山住」軸装
飯田蛇笏「冬晴や杭の禽を射ておとす」短冊
飯田蛇笏「爐をひらく火の冷々と燃えにけり」短冊
飯田蛇笏「神は地上におはし給はず冬の虹」短冊
写真パネル 早稲田大学時代の蛇笏
飯田蛇笏「いもの露連山影を正しうす」額装 1914（大正3）年〈複製〉原本 個人蔵
飯田蛇笏「魂のたとへばあきの蛸かな」額装〈複製〉1927（昭和2）年
写真パネル 家族と庭前で 1917（大正6）年撮影
「ホトトギス」第12巻第1号 1908（明治41）年10月「俳諧散心号」〈複製〉
「俳句欄」（「国民新聞」）切り抜き
「ホトトギス」1914（大正3）年11月「芋の露」巻頭号〈パネル〉
「キララ」創刊号 1915（大正4）年5月〈複製〉原本 東京都近代文学博物館蔵
「キララ」第2号 1915（大正4）年6月〈複製〉原本 東京都近代文学博物館蔵

「キララ」第3巻第11号 1917（大正6）年11月〈複製〉
「雲母」10周年記念号 1924（大正13）年3月〈複製〉
三好達治 飯田蛇笏宛書簡 1949（昭和24）年3月10日
飯田蛇笏『山廬集』1932（昭和7）年12月 雲母社
飯田蛇笏『山廬集』序文原稿〈複製〉
飯田蛇笏『靈芝』1937（昭和12）年6月 改造社
飯田蛇笏『山響集』1940（昭和15）年10月 河出書房
飯田蛇笏『白嶽』1943（昭和18）年2月 起山房
飯田蛇笏『心像』1947（昭和22）年11月 靖文社
飯田蛇笏「心像」原稿〈複製〉
飯田蛇笏『春蘭』1947（昭和22）年7月 改造社
飯田蛇笏『穢土寂光』1936（昭和11）年12月 野田書房
飯田蛇笏『雪峽』1951（昭和26）年12月 創元社
飯田蛇笏 句集『雪峽』句稿〈複製〉
「雲母」復刊号 1946（昭和21）年3月
写真パネル 飯田龍太撮影 炉辺の蛇笏 1956（昭和31）年1月撮影
飯田蛇笏「おく霜を照る日静かに忘れけり」軸装〈複製〉原本 個人蔵
飯田蛇笏「御魂祭折から月の上なり」短冊〈複製〉原本 個人蔵
写真パネル 1958（昭和33）年4月8日、門前を歩く蛇笏と龍太・小林富司夫 撮影 若林賢明
飯田蛇笏『家郷の霧』1956（昭和31）年11月 角川書店
「雲母」1962（昭和37）年10月 蛇笏遺句「山月」掲載
「雲母」1962（昭和37）年11月号 龍太「山廬永別」掲載
「雲母」飯田蛇笏特集号 1963（昭和38）年3・4月
飯田蛇笏『椿花集』1966（昭和41）年5月 角川書店
高浜虚子「山廬」扁額〈複製〉
落款印・印譜

高浜虚子『進むべき俳句の道』1918（大正7）年7月 実業之日本社
前田普羅「荒梅雨や山家の煙這ひまはる」短冊
前田普羅「色かへて夕となりぬ冬の山」短冊〈複製〉
村上鬼城「花ちるや耳ふつて馬のおとなしき」色紙
村上鬼城「瘦馬のあはれ機嫌や秋高し」短冊
原石鼎「満ちしほにすでに灯つらね川開」短冊
原石鼎「夢の穂に冬野の神は立つらしも」短冊
渡辺水巴「何の木か梢そろへけり明の春」短冊
渡辺水巴「秋風やつくゑの上の小人形」短冊
渡辺水巴「土雛はむかし流人や作りけん」色紙

西島麥南「夏山雨後炊煙人の生活を」短冊
西島麥南「菊活くる水絨毯にまろびけり」短冊
石原舟月「新茶して樟の花明に住ひけり」
石原舟月「高汐の日の座をちかみ冬椿」短冊
宮武寒々「すぐろ野を来し姪の靴大人びぬ」短冊
宮武寒々「水迅き宇陀の斑雪に雉撃たる」短冊
中川宋淵「梅の実の子と露の子と生れ合う」短冊
中川宋淵「年木樵ぬかるみを踏み雲をふみ」短冊
松村蒼石「惜春あはあはと年とり過ぎぬ」短冊
松村蒼石「蛇笏はや秋の思ひのなかにあり」色紙
松村蒼石「郭公やわが詩つひにひそかなる」短冊
高室呉龍「初蝶やたかゝらねどもひるがへる」短冊
高室呉龍「老蟪蛄あるきて広き庭に出つ」短冊
高橋淡路女「走馬燈ころに人をまつ夜かな」短冊

高橋淡路女「羽織きて二十三夜の女かな」短冊
柴田白葉女「陸奥の海くらく濤たち春祭」短冊
柴田白葉女「露の夜の昂ぶる髪を梳き乱す」短冊

【飯田龍太】

飯田龍太「紺紺春月おもく出でしかな」軸装
飯田龍太「あつき湯に水さす春の夕餉どき」色紙
飯田龍太「あるときはおたまじやくしが雲の中」軸装
飯田龍太「黒猫の子のぞろぞろと月夜かな」色紙
飯田龍太「萩の箸」原稿
飯田龍太「旅・歳時記 五月」原稿・「旅・歳時記 六月」原稿
飯田龍太「おくの細道雑感」原稿
飯田龍太「夕焼けて夏山おのが場にそびゆ」軸装
飯田龍太「魚賢くてべうべうと夏の海」軸装
飯田龍太「ゆく夏のいく山越えて夕日去る」短冊
飯田龍太「三伏の闇はるかより露のこゑ」軸装
飯田龍太「炎天のかすみをのぼる山の鳥」色紙
飯田龍太「山起伏して乱れなき大暑かな」色紙
飯田龍太「天地戯遊」句稿
飯田龍太「その日の風景」原稿
飯田龍太「闇よりも山大いなる晩夏かな」原稿
飯田龍太「溪流の村」原稿
飯田龍太「つばめ去る鶏鳴もまた糸のごと」軸装
飯田龍太「鰯雲日かげは水の音迅く」色紙
飯田龍太「茸にほへばつつましき故郷あり」色紙
飯田龍太「初秋の眺め」原稿
飯田龍太「露深し不意にめでたき空のいろ」色紙
のむら清六「雲母」表紙原画「半月」額装
飯田龍太「旅の歳時記」原稿
飯田龍太「旅の歳時記（十一月）」原稿
井伏鱒二「飯田龍太の釣」原稿
飯田龍太「俳句のたのしみ」原稿
飯田龍太「山々のはればれねむる深雪かな」軸装
飯田龍太「ふるさとの楢山夢の粉雪舞ひ」色紙
飯田龍太「雪の日暮れはいくたびも読む文のごとし」軸装
飯田龍太「冬の雲生後三日の仔牛立つ」色紙
飯田龍太「遠景」句稿
飯田龍太「梅漬けの種が真赤ぞ甲斐の冬」額装
飯田龍太「白雲のうしろはるけき小春かな」原稿
のむら清六「山廬埋火」軸装
飯田龍太「年暮るる庭師焚火の輪を解けば」原稿
飯田龍太「あるがままを」原稿
飯田龍太「俳句の魅力」原稿
写真パネル 甲府中学5年 1937（昭和12）年、1938年頃
写真パネル 百戸の谿口絵写真
「雲母」1951（昭和26）年6月「紺紺」巻頭号
飯田龍太『百戸の谿』1954（昭和29）年8月 書林新甲鳥
飯田龍太『童眸』1959（昭和34）年3月 角川書店
飯田龍太『麓の人』1965（昭和40）年11月 雲母社 雲母叢書第29篇
飯田龍太『忘音』1968（昭和43）年11月 牧羊社「現代俳句十五人集」第1巻・月報
飯田龍太「一月の川一月の谷の中」軸装〈複製〉
「俳句」1969（昭和44）年2月号

飯田龍太『春の道』1971（昭和46）年10月 牧羊社

愛用の釣り竿

井伏鱒二ほか幸富講寄せ書き「龍太氏給与のヤマメを食ひ広瀬三郎君の病氣回復を祝ふ」

1970（昭和45）年秋〈複製〉

写真パネル 山廬竹林にて 撮影 若林賢明

写真パネル 山廬庭前にて 撮影 齊藤勝久 提供 角川学芸出版

飯田龍太 句集『山の木』草稿

飯田龍太『山の木』1975（昭和50）年4月30日 立風書房

飯田龍太『涼夜』1977（昭和52）年9月 五月書房和装本シリーズの1巻、限定400部

飯田龍太「今昔」草稿

飯田龍太『今昔』1981（昭和56）年11月 立風書房

飯田龍太『山の影』1985（昭和60）年7月 立風書房

飯田龍太『俳句遠近』1986（昭和61）年12月20日 富士見書房

飯田龍太『山居四望』1984（昭和59）年10月21日 講談社

飯田龍太『俳句今昔』1988（昭和63）年7月30日 富士見書房

飯田龍太『遅速』原稿コピー

飯田龍太『遅速』1991（平成3）年12月 立風書房

飯田龍太『雲母』の終刊について」原稿（写し）

飯田龍太『新編雲母句集』について」原稿

「雲母」1992（平成4）年7月

「雲母」終刊号 1992（平成4）年8月

飯田龍太『新編雲母句集』について」原稿

『新編雲母句集』1992（平成4）10月10日 900号号外

飯田龍太『紺の記憶』1994（平成6）年7月20日 角川書店

飯田龍太『遠い日のこと』1997（平成9）年6月20日 角川書店

落款印

印譜

愛用カメラ 二眼レフ（革カバー）

写真パネル 村の女性・村の農家・村の風景・狐川畔 撮影 飯田龍太

写真パネル 狐川上流 撮影 飯田龍太

第5室 山梨出身・ゆかりの作家

前期展示 5月1日（月）～8月27日（日）

【ジャーナリズム】

徳富蘇峰

徳富蘇峰『烟霞勝遊記』上・下 1924（大正13）年 民友社
徳富蘇峰「推倒一世王智勇開拓萬古之心胸」軸装
藤谷みさを『蘇峰先生の人間像』1958（昭和33）年1月 明玄書房

池辺三山

池辺三山「新聞記者の地位」「山梨日日新聞」1888（明治21）年1月12日〈パネル〉

川合信水

川合信水『吾が体験の道』1925（大正14）年9月 生々社

石橋湛山

『石橋湛山写真譜』1973（昭和48）年3月 東洋経済新報社

廣瀬千香

廣瀬千香「箸もつ筆もつたまさか針も」色紙
廣瀬千香『山中共古ノート』第1～3集 1973（昭和48）年6月～1975（昭和50）年6月
廣瀬千香『思ひ出雑多帖』1990（平成2）年7月 日本古書通信社

川合 仁

川合仁『私の知っている人達』1970（昭和45）年10月 藤書房
川合澄男『回想・川合仁』1975（昭和50）年4月 川合仁刊行会

望月百合子

矢崎千代二 画「望月百合子肖像」
写真パネル「女人芸術」大阪宣伝旅行 1928（昭和3）年
望月百合子『大陸に生きる』1941（昭和16）年5月 大和書店
望月百合子『限りない自由を生きて』1988（昭和63）年3月 トメス出版

雨宮庸蔵

谷崎潤一郎「いしだんをかぞへて登る乙女子の袖のちりくるやまさくらかな」色紙
十一谷義三郎 雨宮庸蔵宛書簡 1933（昭和8）年8月（年月推定）日不明
雨宮庸蔵『偲ぶ草』1988（昭和63）年11月 中央公論社

竹中 労

竹中労ほか「夢よ少年懐古浅草の灯よチャンバラ時よ」色紙
竹中労『無頼と荊冠』1973（昭和48）年9月 三笠書房
竹中労『ザ・ビートルズレポート』1982（昭和57）年6月 白夜叢書
竹中労『仮面を剥ぐ』1983（昭和58）年2月 幸洋出版
竹中労『鞍馬天狗のおじさんは』1992（平成4）年8月 ちくま文庫

【小説・評論・随筆・翻訳ほか】

相田隆太郎

相田隆太郎『テクノクラシイ』1933（昭和8）年4月 新潮社
相田隆太郎『農民文学の諸問題』1949（昭和24）年4月 甲陽書房

和田芳恵

和田芳恵「蓬生日記（一葉日記）」原稿

和田芳恵『接木の台』1974（昭和49）年9月 河出書房新社

山田多賀市

写真パネル 45歳の時の山田多賀市

山田多賀市『耕土』1940（昭和15）年3月 大観堂書店

「農民文学」創刊号 1951（昭和26）年9月 農民文化協会

新田次郎

新田次郎「富士を守れ」原稿〈複製〉

写真パネル 新田次郎（右）と上野晴信（歴史家 山梨県生まれ）

新田次郎『強力伝』1956（昭和31）年2月再版 朋文堂

新田次郎『芙蓉の人』1971（昭和46）年5月 文藝春秋

石原文雄

のむら清六画 石原文雄肖像

「中部文学」創刊号 1940（昭和15）年4月

石原文雄『断崖の村』1946（昭和21）年7月 高須書房

藤巻宜城

「あぢさゐ」5月号 1922（大正11）年5月

「映象」第1輯 1925（大正14）年4月

「中央線」創刊号 1968（昭和43）年3月

中村鬼十郎

中村鬼十郎『傾斜地の村』1943（昭和18）年9月 アジア青年社

中村鬼十郎「慟哭の川」草稿

中村鬼十郎『慟哭の川』1976（昭和51）年10月 甲陽書房

熊王徳平

熊王徳平「山の端を月上るなりきりぎりす」色紙

熊王徳平『いろは歌留多』1942（昭和17）年2月 第一芸文社

熊王徳平『無名作家の手記』1957（昭和32）年12月 講談社

熊王徳平『甲州商人』1958（昭和33）年9月 五月書房

熊王徳平『富士川』1958（昭和33）年11月 出版書肆パトリア

加賀美 実

加賀美実『昭和初年の青春』1967（昭和42）年6月 福岡書房

加賀美実『恥辱の時代』1974（昭和49）年4月 文化総合出版

加賀美実『蛙』1984（昭和59）年4月 文化総合出版

小林 実

小林実「皇居外苑」原稿

小林実『新墾地』1935（昭和10）年2月 吐風書房

小林実『開拓際』康德9年4月30日 満洲事情案内所

「講談倶楽部」第11巻第12号 1959（昭和34）年12月

小林実『白い太陽』第一部・第二部 1961（昭和36）年3月 東京信友社

鳴山草平

写真パネル 鳴山草平「甲府市の自宅で」1937（昭和12）年春

「新青年」第20巻第5号 1939（昭和14）年4月

鳴山草平「カミナリ（先生）青春帖 第六話—緑の吹く風の章」草稿

鳴山草平『カミナリ先生青春帖』1960（昭和35）年1月 同人社

羽中田 誠

野間仁根『酔いどれ記者』挿絵原画

羽中田誠『酔いどれ記者』1953（昭和28）年12月 鱒書房

保坂義照

保坂義照『武田二十四将論』1944（昭和19）年2月 アジア青年社

保坂義照『愁風天目山』1952（昭和27）年9月 農村文化協会

小川正子

小川正子『小島の春』1939（昭和14）年4月改版 長崎書店

金子文子

金子文子『何が私をかうさせたか』1931（昭和6）年7月 春秋社

『金子ふみ子 全歌集 獄窓に想ふ』1987（昭和62）年12月 黒色戦線社

大町桂月

大町桂月「ふもとよりいたゝきまでも富士の根を背負ひてのぼる八ヶ嶽かな」扇面

野尻抱影

野尻抱影 小尾孝平宛葉書 1910（明治43）年5月19日〈複製〉

山口誓子・野尻抱影『星恋』1946（昭和21）年6月 鎌倉書房

平賀文男

平賀文男『日本南アルプス』1929（昭和4）年6月 博文館

「山と溪谷」第168号 1953（昭和28）年6月 山と溪谷社

寺田重雄

寺田重雄『甲州魚風土記』1980（昭和55）年12月 芸文社

「鶴 nue」終刊号（寺田重雄追悼号）1995（平成7）年10月

芦澤一洋

写真パネル 芦澤一洋「アメリカアイダホ州のヘンリーズフォークで」

芦澤一洋『バックパッキング入門』1976（昭和51）年月 山と溪谷社

芦澤一洋『自然とつきあう五十章』1979（昭和54）年6月 森林書房

芦澤一洋『フライフィッシング全書』1983（昭和58）年 森林書房

芦澤一洋『アウトドア・ものローグ』1985（昭和60）年8月 森林書房

芦澤一洋『山女魚里の釣り』1989（平成元）年2月 山と溪谷社

芦澤一洋『アーヴィングを読んだ日』1994（平成6）年11月 小沢書店

山中共古

山中共古『甲斐の落葉』1926（大正15）年11月 郷土研究社

土橋里木

土橋里木『山梨県の民話と伝説』1979（昭和54）年7月 有峰書店

土橋里木『山村夜譚』1993（平成5）年6月 近代文芸社

大森義憲

大森義憲『甲州年中行事』1952（昭和27）年11月 山梨民俗の会

中沢 厚

中沢厚『山梨県の道祖神』1973（昭和48）年5月 有峰書店

中沢厚『つぶて』1981（昭和56）年12月 法政大学出版局

浅川伯教

「白磁」創刊号 1922（大正11）年4月

浅川伯教『釜山窯と対州釜』1930（昭和5）年7月 彩壺会

浅川 巧

浅川巧『朝鮮の膳』1929（昭和4）年3月 工政会出版部

永峯秀樹

永峯秀樹『暴夜物語』第1編・第2編 1875（明治8）年2月、5月 山城屋

矢崎源九郎

矢崎源九郎訳『アンデルセン童話名作集』1955（昭和30）年3月 筑摩書房

【童話・童謡】

大村主計

大村主計「花かげ」色紙

大村主計『ばあやのお里』1932（昭和7）年1月 児童芸術社

大村主計 童謡集『麥笛』1932（昭和7）年9月 児童芸術社

「楽しい童謡集」レコード盤 1959（昭和34）年 コロムビアレコード

大村主計『花かげ』1981（昭和56）年10月

米山愛紫

「チチノキ」第19冊 1935（昭和10）年5月

米山愛紫『春の停車場』1942（昭和17）年6月 文昭社

小野政方

小野政方『りんごののぞみ』1928（昭和3）年10月 研究社

小野政方『愛児読本』ひらかなの巻 1934（昭和9）年10月 厚生閣

太田黒克彦

太田黒克彦「マスの旅」原稿

太田黒克彦『マスの大旅行』1956（昭和31）年9月 大日本雄辨会講談社

山北しげり

山北しげり『小人の踊り』1936（昭和11）年11月 宏文堂書店

「シャボン玉」1937（昭和12）年2月

塩沢 清

塩沢清『ガキ大將行進曲』1977（昭和52）年4月 旺文社

塩沢清『ぼくもあの子も転校生』1987（昭和62）年8月 ポプラ社

塩沢清『もうひとりのわたしみつけた～理香とチエリの物語～』1992（平成4）年5月 ポプラ社

【戯曲・脚本】

小林一三

小林一三『歌劇十曲』1917（大正6）年10月 玄文社

小林一三『曾根崎艶話』1948（昭和23）年10月 芙蓉書房

河野義博

中村吉蔵・河野義博『近代演劇史論』1921（大正10）年12月 日本評論社

「演劇」創刊号 1932（昭和7）年4月

写真パネル 河野義博作品の舞台写真

大木直太郎

「月水金」6 1937（昭和12）年1月

吉野源三郎 脚色 大木直太郎 脚色『君たちはどう生きるか』1978（昭和53）年5月9刷 未来社

大木直太郎『大木直太郎戯曲選集』1998（平成10）年5月 陽光台OAプラザ

菊島隆三

菊島隆三・黒沢明共同脚本「用心棒」第2稿台本

菊島隆三・黒沢明・小国英雄共同脚本「椿三十郎」台本（決定稿）

「からっ風野郎」台本 1960（昭和35）年 大映東京撮影所製作

小柳津浩

小柳津浩『学校演劇論』1953（昭和28）年11月 甲陽書房

小柳津浩『青年演劇脚本集』1958（昭和33）年7月 甲陽書房

『小柳津浩脚本集 二発の銃声』1986（昭和61）年9月 山梨舞台芸術センター

竹内勇太郎

竹内勇太郎「赤帽母ちゃん」原稿

竹内勇太郎『山本勘介』第1巻 1985（昭和60）年8月 学習研究社

後期展示 9月26日（火）～3月3日（日）

【詩】

青柳瑞穂

青柳瑞穂『睡眠』1931（昭和6）年1月 第一書房

青柳瑞穂「玉堂の花」原稿

尾崎喜八

尾崎喜八『山の絵本』1935（昭和10）年7月 朋文堂

尾崎喜八「遠い日の山小屋」原稿〈複製〉

金子光晴

金子光晴「似顔絵の似たる日秋の足の冷」色紙

金子光晴『落下傘』1948（昭和23）年4月 日本未来社

杉原邦太郎

杉原邦太郎「昨日は靡く翠であった」色紙

「山脈」創刊号 1930（昭和5）年8月

杉原邦太郎『火山』1930（昭和5）年2月 機山閣書店

内田義廣

内田義廣『花の群落』1976（昭和51）年4月 日本未来派の会

上野頼三郎

上野頼三郎「犬のように」詩稿

上野頼三郎『村の生活』1930（昭和5）年10月 村落社

山口啓一

山口啓一『石炭と花』1930（昭和5）年5月 機山閣書店

中室員重

中室員重『兵隊詩集』1931（昭和6）年8月 海図社

米澤順子

米澤順子「額のある静物」油彩 昭和初期

米澤順子『聖水盤』1919（大正8）年11月 東京堂

米倉寿仁

米倉寿仁『透明ナ歳月』1937（昭和12）年4月 西東書林

宮田樗夫

宮田樗夫「オパールの変転ルビーの紋章」色紙

宮田樗夫『仮面』1954（昭和29）年10月 甲府派発行所

曾根崎保太郎

曾根崎保太郎「酩酊が抱くフェニックスの卵黄」色紙

曾根崎保太郎『灰色の体質』1954（昭和29）年11月 甲府派発行所

野澤 一

野澤一「四十一歳三月三日夜作」未定稿

「童子行」1号 1937（昭和12）年5月

津嘉山一穂

津嘉山一穂「未刊詩集」草稿

鈴木久夫

鈴木久夫「断崖」原稿

鈴木久夫『断崖』1930（昭和5）年11月 民謡レビュー社

鈴木祐之

鈴木祐之「心の傾きに」原稿

鈴木祐之『わたしのヒロシマ』1969（昭和44）年3月 甲陽書房

小林富司夫

小林富司夫「地は落葉線路の枕木を一本一本渡ってゆくと満月がいたぼくは冬の満月をすぎた」色紙

小林富司夫『きいろい炎』1949（昭和24）年5月 中部文学社

土橋治重

土橋治重「甲州は颯爽と山々が肌を脱いでいた夜は深々と星がかがやいた」色紙

土橋治重 詩集『花』1953（昭和28）年1月 日本未来派発行所

「風」129（終刊）号 土橋治重追悼号 1993（平成5）年12月

中込純次

中込純次「詩集母と恋人」原稿「山茶花」

中込純次『母と恋人』1929（昭和4）年1月 国風閣

一瀬 稔

一瀬稔 筆 のむら清六 画「裏山で」軸装

一瀬稔 詩集『山鶏』1940（昭和15）年10月 中部文学社

【短歌】

伊藤生更

伊藤生更「北の方より駒鳳凰農鳥と我が目を移す雪の高山」軸装

「美知思波」創刊号 1935（昭和10）年6月

伊藤生更『山雲』1953（昭和28）年10月 美知思波発行所

中村美穂

「アララギ」第18巻第5号 1925（大正14）年5月

中村美穂『佛顔』1931（昭和6）年9月 みづがき社

相澤貫一

相澤貫一『石水集』1971（昭和46）年6月 発行人 古谷幸江